

研究テーマ：日頃の授業をもう1度振り返り、改善点を明確にしよう

所属 盲学校

氏名 滝石 いづみ

R G S H 2

1 研究の背景

英語は読めないから面白いくない、という1年生の男子生徒1名のクラスで取り組むことにした。授業では、まず、英語が読めることにポイントを置いて取り組むことにした。教材の中にでた英単語一つ一つにつき、英語独特の音の妙、あいまい音や発音しない音などを説明し、練習したあと、テキストの読みにつなげていく形をとっている。視力障害（弱視）のため、板書や教科書の文字がはっきりと認識できていないまま学習してきたと考えられ、読む、書く、話す、の全ての領域に影響が出ているケースのように思われる。40人近くの集団の中で、「わからない」「見えない」と言うことはなかなか言い出せないことで、他の生徒と同じように学習することで、見えない自分の存在をカバーしてきた様子がかがえる。ノートを取るのは早いですが、間違いが多い。

2 リサーチクエスチョン

英語が正しく発音でき、読めるようになる

文中で3、4、5文型を理解し、身近なことについて1時間の授業の中で2つ表現することができるようになる

3 予備調査

予備調査1 授業観察の結果

発音 ローマ字読みが多い

リーディング 一つ一つの単語を読むことに精一杯で、初回の本文読みは、1ページ20分近くかかった。

ライティング ローマ字書きになる、間違いが多い

内容理解 どんな文も、知っている単語をつなぎ合わせ、理解しようとする。文型の基礎知識が定着していないので、文中で応用できていない。

分りたいという意欲がある。

4 仮説の設定

(1) 仮説

仮説1 この生徒の場合、見えにくさを補う教具や教材を選び、「見える」環境を作り、授業を行うことで、「読める＝苦手意識の払拭」授業の第1歩につなげることができるのではないか。

仮説2 文が「読めるようになる」ために正確に単語を覚え、発音と読みの活動は連動させて行い、音読練習を重ね、日本語の訳を理解したあと、再度音読練習を行えば、読めない語（句）が少なくなり、リーディングの速さにつながり、意味の理解へのステップ

となるのではないだろうか。

仮説3 基本文や文法は中学生で習ったものと並行させて日本語の意味や、こういったときに使われるのかを説明し、英語の語順とフレーズでとらえることをクローズアップしながら考える活動を増やしていけば理解につながらないだろうか。

5 計画の実践

仮説1での想定は弱視の生徒への基本的な配慮として、生徒の単眼鏡や拡大読書機の使用とあわせて、単語や基本文の書き間違いをなくすために、その時間に使う語や教科書の拡大プリントや携帯用ホワイトボードの利用、板書の工夫など見えやすい状態で授業が受けられるよう工夫をしていった。

仮説2と仮説3は同時進行の形で行い、単語を正確に覚えることが、正確なリーディングにつながると考え、単語と連語の発音のあと、ディクテーションを行い、生徒がホワイトボードに書き、同時にスペリングのチェックを行い、生徒自身が訂正しながら覚えていく形をとった。本文は各パートとも、音読を優先させ、語句の発音のあとに、リスニング、リーディング(センテンスからフレーズへ)を実施。シャドーイングの後、生徒と教師が交互に読みあったり、訳は先渡ししの形や、ワンセンテンスごと教師が口頭で言ったあと、生徒が英語読みする形などを行い、意味を理解して読むことを促した。また、オーソドックスではあるが、毎回単語のテストを実施した。文型に関しては、パラグラフごとに情報のひとまとまりを追加していく英語の語順に着目した、チャンクの要素を取り入れ、語順を意識するようにした。仕上げは文法と合わせ、オーラルの時間にALTと一緒にコミュニケーション活動として行った。

6 実践の結果

スペリングの間違いは減ってきている。聞いてわかる単語が増えた。発音についても明らかな間違いは少なくなってきたが、ローマ字読みに戻ってしまう傾向は残っている。音読については、文字を早く追うことができるようになり、内容の確認にもプラスになってきている。しかし、リスニング、リーディングの速さはALTのノーマルスピードよりかなり遅い。文型については、文法用語を使うとやはり発言が少なくなる傾向にある。

7 結果の検証

時間はかかったが、単語から始めたことはわかることへの一歩につながっているように思う。

文の成り立ちについては、どうしても説明が多くなりがちで、生徒が受動的な授業になってしまっている。情報のまとまりとしてとらえるにも、生徒の文法の理解が必要で、その指導工夫が十分ではなく、中途半端に終わっている。使われる状況や場面を設定しながらおこなった表現は定着しているので、週1回のコミュニケーション活動と連動させた方がよい。

8 成果と今後の課題

生徒がわかったという時は、前回の授業の反省点がきちんとわかり、そこを違った方法でアプローチしていくという基本に戻ることが大切だということ。そのために、自分の英語力を高める努力をすること。進めていく中でいろいろな指導方法について知識が乏しいということを実感しました。

今後の課題として、英語力を高める努力を続ける 記録をまめにする 英語の指導法についてもっと多くを知ること。 オーラル以外の授業で英語を使う機会を増やす。

自分自身の反省と課題の多い日々でした。